

令和3年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

事業実施報告書

- I スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び  
 II マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成  
 III スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築  
 IV 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成  
 V スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成

道府県・政令市名【 京都府 】

学校名【 木津川市立山城中学校 】

1 実践テーマ	【 I・III 】
2 実施対象者	木津川市立山城中学校 3年生（男子49名、女子41名）計90名
3 展開の形式	(1) 学校における活動 ① 教科名（総合的な学習の時間） ② 行事名（車椅子バスケットボール体験学習）
4 目標 (ねらい)	多様なスポーツを体験し親しむことで、生徒一人一人の「スポーツ志向」の高まりを期待するとともに、障害の有無に関係ない平等な社会作りを目指す姿勢を養う。 障害がある方からの体験や思いを実際に聞くことで、他者を理解することで自他を尊重する心や思いやりを含む「ボランティアマインド」を養う。また、共生社会を築くための障害者理解を深める。
5 取組内容	○車椅子バスケットボール体験学習 (1) 日時 令和3年11月22日（月） (2) 講師 阪根泰子氏（元アテネパラリンピック日本代表選手） 他1名 (3) 対象 第3学年生徒 (4) 内容 ア、パラリンピックに関する学習 イ、車椅子バスケットボールに関する学習 ウ、講師の先生方の体験談を元にしたお話 エ、生徒全員による車椅子体験（リレー） オ、車椅子バスケットボールの体験 
6 主な成果	障害者スポーツの世界を知り、パラリンピックの価値を学習して、共生社会実現のために、具体的にどのような視点を持ってスポーツに関わっていけばいいのかを考えることができた。 また、障害者となることになったいきさつや生き立ちなど、さまざまな体験を聞くことで、障害がある方々の立場になって想像したり考えたりすることができた。そして、そのことが障害者理解を深めることに大変効果的であった。

	<p>そして、元アテネパラリンピック日本代表選手などパラリンピックに出場した選手と実際にゲームを行ったり、体験談を聞いたりしたことで、障害の有無に関係なくスポーツを楽しむこと、目標を持って行動することの大切さに変わりはないことなどを肌で感じる事ができた。</p>
7 実践において工夫した点 (事業の特色)	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 体験学習をより効果的に行うため、指導者の推薦する競技用車椅子を借り受け、「車椅子バスケットボール」の特徴や特性、技能について深く学べるように配慮した。</li> <li>• 開催案内や当日の様子を、学校だより、学年通信、学級通信を活用して周知を図った。</li> <li>• マスク、消毒の徹底を行った。</li> </ul>
8 主な課題等	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 講演や体験学習の開催については、周知を徹底し、一人でも多くの保護者・地域住民の参加が得られるように啓発活動を工夫する必要がある。</li> <li>• 障害者スポーツを体験することで、障害者理解学習やスポーツへの関心・競技力向上、スポーツボランティアへの参画への意識向上をねらうので、より効果的な教育課程編成に向け、人権教育や道徳教育をはじめ年間指導計画の見直しをする必要がある。</li> </ul>
9 来年度以降の実施予定	<p>本事業は終結のようであるが、引き続き「車椅子バスケットボール」体験学習については、来年度以降も継続して実施する予定である。</p>